


連絡先 NPO法人エコけん事務局

☎FAX 092-944-3012 (火～土 9:00～17:00) e-mail eco_ecoken.@ybb.ne.jp

発行責任者 清水佳香

 http://www10.ocn.ne.jp/~ecoken/




8月活動報告



8月のエコロの森は、恒例の夏休み教室の真っ最中。それに加え、前半は再生自転車・家具の展示会期間中（7月23日～8月6日）ということもあって、たくさんの来館者でにぎわっていました。教室終了後の後半は、初めての展示室（2F）を使った「エコロ展示会」を開催し、夏の名残を惜しむまったりとした時間が流れました。今年の夏休み教室は、教室数を昨年より抑えたにもかかわらず、来館者は微増し、常設の企画で楽しんでいただける様子が伺え、うれしく思いました。

自主事業では、出前講座がじわりと定着し、おなじみのエコエコクッキングや福岡教育大学の公開講座（2年目）も無事終了しました。また、京都のNPO法人木野環境とのEMS構築支援の連携も継続中です。8月30日に支援募集の新聞広告が出されました。また、エコマップ作成に向けた調査も継続中です。

暑かった夏も過ぎ、気持ちよい風が吹いています。どうぞエコロの森にも遊びに来てください。

日	自主事業	受託事業 (エコステ活動)
2		かえっこ MY企画(染色)
3		子どもエコエコクッキング 
4		創作アート教室《布カラス》 MY企画(小布織り 小さな調査隊)
5		エコロ環境教室(市民団体) ポラ会(展示)
6		創作アート教室《小分けトレイ》
8	エコロまつり説明会	
9	福岡教育大学公開講座講師:3日間	エコロ環境教室(事業所) MY企画(染色)
10	エコロまつりの内容も決まりあとは開催に向けGOGO! 打ち合わせにあげくれました	
11		教室会議 ポラ会(紙すき)
17		子どもエコエコクッキング  ポラ会(エコエコクッキング)
19		リメイク教室《ペットコサージュ》
20		創作アート教室《ペットロケット》 段ボール迷路解体 かえっこ 
23		教室会議 エコロ展覧会
24	古賀市広報公聴懇話会出席	エコロ環境教室(事業所) MY企画(染色)
27		
29	定例会議	運営会議
31	エコけんニュース73号発行	ぼくとゆくと27号発行 エコロ環境教室(事業所) MY企画(小布織り)

「学習プラン作成ワークショップ」を終えて



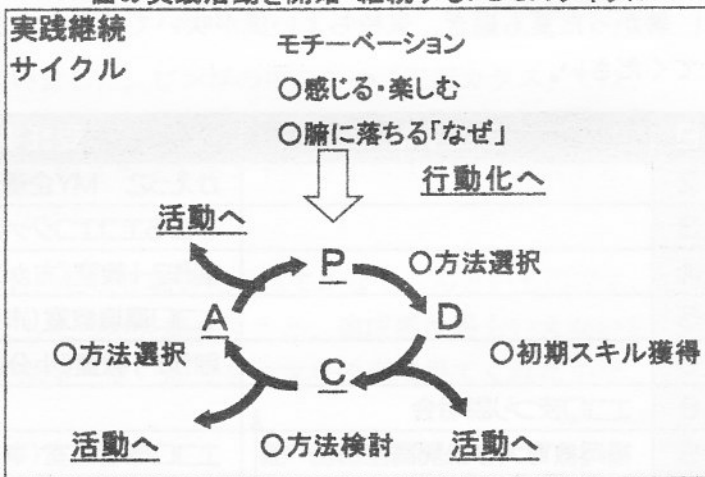
去る7月29日、私たちにとっては2回目となる「学習プラン作成ワークショップ」を実施しました。今年は、秋に実施予定の実践的体験プランの作成に取り組む事ができました。「環境問題にはどんなものがある?」「地球温暖化の原因はなに?」もちろんそういった知識も大切ですが、今環境教育に求められているものは、それだけではありません。

始めに環境教育の歴史を学びます。すると、温暖化は「私たちの生活そのものが環境に影響を及ぼした」結果であり、それを踏まえて「一人一人が、自身の日常生活を振り返り、主体的に行動する」必要があるらしいことが浮かび上がります。

では、子供たちが「温暖化問題が、自分の生活にとっても密着している」ことを実感し、「主体的に行動する態度」が育まれるために適した学習プランとはどんなものなのでしょう?

環境啓発活動に携わるようになって以来、私たちは様々な体験機器(手回し発電機・足こぎ発電機・風力発電帽子etc)を取り入れてきました。しかしそれらをいくら用いても、これがスタンダードだと言えるような学習プランは、出来上がっていません。

個の実践活動を開始・継続するPDCAサイクル



今回実施したワークショップスタイルの学習プラン作成なら、参加者が「どうしたらより良くなるだろう」と主体的に工夫できるので、環境教育の必要性が叫ばれながら具体的なスタンダードがない現状にとっても適していると思っています。さらに、環境マネジメントシステムや指導における安全の確保に関する知識も押さえた上で作成することで、体験学習をより良く安全に実施する道を模索できたらと考えています。

来年も「学習プラン作成ワークショップ」を実施できたらいいなと思っています。よろしくお願いいたします。

『ほたるの会』は、ほたるを守ることを通じて古賀の美しい自然を守り次の世代に伝えていくことを目的に設立された団体です。エコロの森でもエコロをつなぐ仲間として団体登録をいただいています。

「生き物も食べ物も田んぼのめぐみ」講演：宇根豊先生（農と自然の研究所）

正直なところ、私は環境問題に関心があるとはいえ農業のことは何も知りません。現場の苦勞を知らない負い目をかかえてドキドキしながら座っていました。

先生は「田んぼのめぐみは米だけではなくとんぼやげんごろうなどの生き物である」と述べられます。さらに正月のしめ縄やお飾りの伝統に見られるように、米は私たちにとって単なる食料ではなく日々の生活と深くつながっていました。



春はれんげ摘み、梅雨のころは蛙をよけながらの登下校、初秋の黄金の稲穂、硬くて痛い足の裏の感触が残る冬の田んぼ ... 小さい頃、遊び場は公園でも運動場でもなく田んぼでした。ご飯を残すとお百姓さんに申し訳ないとよく叱られたものです。

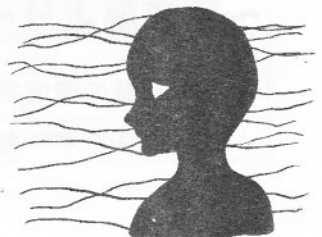


先生のお話によると「日本人の多くが太古の昔から紡いできた稲作文化や原風景として心に抱く田んぼの存在を忘れ、田んぼを自分たちの食料をつくる工場と思っている。消費者は田んぼの生き物を遠ざけているのに無農薬の食べ物を求め、生産者は消費者の方ばかりを向き生産の効率やコストダウンを追求している。」ということでした。

また、古賀の人が地元の人参を食べないと人参の葉を食べて育つ黄アゲハが古賀から姿を消すというお話は象徴的でした。地元の田んぼや畑に思いを寄せることなく遠くの食べ物ばかりを食べていると、地元の原風景は壊れ、生き物は姿を消してしまうというのです。今までエネルギーの面から地産地消を理解していた私は自分の上滑りな知識に小さくなってしまいました。

先生は提案されています。「田んぼの風景や生き物と親しくなり本当の農業の価値を知ってこそ自然の価値がわかる。消費者は地元の食べ物を食べることで生産者と自然とつながろう。生産者はあぜ道の草刈りの意義をもっと消費者に伝えていこう。」

今春から東京で暮らす娘がお盆に帰郷した際、家にも入らず、籾内の田んぼをしばらく眺めていました。彼女の気持ち、今、やっとわかりました。



エコステだより

古賀東中連携教室

9月14日(水) 9:10~12:00

まだ残暑厳しい中、古賀東中学校から徒歩で160名弱の1年生が、昨年に続いて来館しました。東中では、『総合』で環境について学習します。そのお手伝いできればと、夏休みから、先生方と打ち合わせ準備しました。

生徒は、3班(省エネ・ごみ減量・水環境)に分かれ、それぞれ、環境講座・ビンゴ・工場見学を各40分ずつ体験しました。

◆環境講座(3班共通講話)◆

「地球温暖化について知ろう」地球温暖化による気象変動は、すでに私達の生活に影響をおよぼしているようです。子ども達が、問題を自分に引き寄せ、自分にできることを考える手伝いをします。

◆ビンゴ◆

クイズ・ごみ分別(減量)ひと手間体験・エネルギー体験・水体験などを通し、楽しく学習します。



生徒達は意欲的に参加していました。ビンゴの中の1つ「王冠カラス」では、大切に廃材での作品作りをする姿が印象的でした。また、駐輪場での最後のまとめの時間で、「エコロまつり」のメインイベントペットロケットを飛ばすと、子どもたちから大歓声があがりました。

中学生の来館は、人数・学習内容など職員にとってかなりしんどいものです。でもその分、帰って行く子どもたちの笑顔を見ると、達成感は得もいえないものがあります。普段、学校では学べない部分をエコロの森で得てくれたかな、とほっとしました。




◆◆◆◆◆ 古賀清掃工場 再生・展示棟 ◆◆◆◆◆

☎ 811-3121 古賀市筵内1970-1 ☎ 電話 092-942-1530 内線 (701)

☎ FAX 092-942-1532 ✉ メール ecosta@ecolo-no-mori.com

~事務局より~

❖ 前号掲載の環境省のホームページアドレスが変更になっています。ぜひご覧下さい。

 <http://www.env.go.jp/policy/edu/touroku/index.html>